

お久しぶりです。

昨年10月に退会した ○○です。

突然姿を消し、申し訳ありませんでした。

この文章は、捨てて（または削除して）頂いて結構ですが、是非一度は目を通して下さい。

退会した者に接触することや、会に対して批判的な事を掲載したサイトやブログを見ることは「悪になる」、あるいは「皆様のご縁にマイナスになる」と教えられているはずですが。

しかし、私が本会の方向性に対して違和感を持ち始めたのは、こうした指導が目立つようになったことがきっかけかも知れません。

1. 親鸞会の存在意味

親鸞会が親鸞会たる所以は、以下にあったはずですが。
自分に置き換えれば、会員である理由です。

◎親鸞会で（＝高森先生が）教えられていることは正しい。

突き詰めて言えば

◎親鸞会で（＝高森先生が）教えられていることだけが正しい。
先生はただ一人の善知識である。

当然ですが、此处で言う「正しい」とは、
「親鸞聖人の教えを正しく教えている」ということです。

S号ピラをご存知でしょうか。

**今まで、親鸞聖人の教えをネジ曲げて大衆を騙し、仏法を食べ物にしてきた人達は、
本当の親鸞聖人の教えが大衆に知れわたることを極度に怖れます。
親鸞会の主張に対して異議、反論のある方は遠慮なく申し出てください。
相手が集団であれ、個人であれ、公開であれ、非公開であれ、討論であれ、
文書討論であれ、相手の希望される方法で、時と場所を問わず、
ほんとうの親鸞聖人のみ教えを開顕するために、喜んで対決に応じます。**

かつての親鸞会はこの宣言にある通り、書籍を発行し、本願寺にも法論を挑み、
抗議行動も3度に渡って起こしました。私も3回目には参加しました。

『本願寺なぜ答えぬ』、『法戦』シリーズには、批判する相手の主張を掲載し、
それに対する反論を掲載していました。

批判する相手をおかしいと言う以上は、相手が誰であるか明らかにして、
どのように主張しているのかを掲載し、
どこが誤りなのかを明らかにするのは当然なことです。

かつてはそのことを実践し会の内部、外部を問わず発信してきたのが親鸞会という集まりなのです。

2. 退会前後の状況

数年前に、

「土蔵秘事、あるいはそれに類する者達」に気をつけなさいと指導がありました。それに類するものとは何のことだろうと不思議に思った人も多いと思います。

そもそも、自分が土蔵秘事に迷う事は無いだろうし、何が問題なのかよく分からないと感じていました。

実はこの「類する者達」とは京都にある「浄土真宗 華光会」のことであり、先生と「華光会」との関係については、親鸞会の会員にとって重大な事実があるのですがここでは触れません。

後から考えれば「華光会」という会は、親鸞会の会員は知ってはならない、触れてはならないタブーのような存在でした。

2年ほど前から、除名者の通達が連絡されるようになりました。

「講師部の誰々が除名になった」除名者は呼び捨てです。

その人達が辞めたからと言って、自分にとってそれ程関係は有りません。

ところが、そのことで支部長の皆さんが随分と慌てているのです。

「除名者から連絡がなかったか」「彼らと接触してはいけない」

「ネットで誹謗する内容をばらまいているから見てはいけない」

「ネットの情報は戯言だから見ない方が良い」

「見るだけで悪になる」といったり、除名者をことさら悪し様に扱う過剰な反応に意外な感覚を覚えました。

ネットの情報は、玉石混交（ほとんど石）というのは常識です。

誤ったことを書いているのであれば、相手にしなければいいのであり、反論すればいいのです。

何か知られては困ることがあり、それを知られないように隠している、と思われても仕方がない対応だったのです。

隠しておきたい事実の有無よりも、隠そうとするその姿に違和感を感じたのです。

3. 退会の決意について

浄土真宗では、救いは全て阿弥陀仏のお働きによるものだと教えられます。もちろん親鸞会でもそのように教えます。

一方で、親鸞会では

「善をしなければ信仰は進みませんよ」「信仰が進まなければ救われませんよ」と聞かされます。

この言葉を聴くと、どうも釈然としない・・・。

他力に帰するためには、自力いっぱい善をしなければならないというのでは、

他力廻向になりません。
阿弥陀仏の願力で善をさせられる。宿善になるというのも自分でする善の作用が介在しています。

この2つの関係はどうなっているのか、
聴聞で何か答えが得られるはずだと思っていました。

しかし、結局答えは用意されていなかったと気付かされたのです。

昨年6月の親鸞聖人降誕会の2日目の内容を覚えているでしょうか。

修善（親鸞聖人の場合は比叡山での20年間のご修行）
をしたから、悪しかできない自分が知らされ、
極悪人と見抜かれた願に相応して、救われたのだ、と話がありました。
修善によって願に相応する！と言い切られたのです。
本願力はどこにも出てきませんでした。

話の内容や文章にはその人の本音が出ます。
また、もっとも大切なところは言い間違えや、言い忘れはしないのです。

要するにこの人は「善をしなければ救われませんよ」
と言いたいのであり、それ以上の” 答え” は無いのだと判りました。

親鸞聖人は「善をしなければ救われませんよ」とはどこにも
教えられていません。

それをあたかも「善をしなければ救われぬ」と思わせるような
話をするを「親鸞聖人の教えをネジ曲げている」というのです。

今まで長い間聞かせていただいた事実は変わりません。
情熱的な説法には感動しました。その他様々なことを教えられたことは間違いありません。
そのことに対する感謝の気持ちも有ります。

しかし、
私は、正しい、本当の救いのある親鸞聖人、浄土真宗の教えを聞きたいのです。
間違った教えを何十年、何千年聞いても救いは覚束ないのですから。
人生の大半を費やし、周囲にも迷惑をかけ、様々な犠牲を払って聞いているのです。
暇つぶしや、趣味の延長では無いのです。

それから、色々な手段で調べてみました。

4. 分かったこと

修善について

親鸞会の教義の最大の特徴は、

「善をしなければ信仰は進みませんよ」「信仰が進まなければ救われませんよ」

「修善は獲信の因縁になる。」と教えるところにあります。

つまり、善をすることが阿弥陀仏に救われることと良い関係にあると仰うことです。

しかし、上記のようなことを親鸞聖人は何処にも書かれていません。

親鸞会では、親鸞聖人が阿弥陀仏に救われる為に善をなさいと勧められた根拠として、以下の御和讃をあげることがあります。

至心・発願・欲生と

十方衆生を方便し

衆善の仮門ひらきてぞ

現其人前と願じける

臨終現前の願により

釈迦は諸善をことごとく

『観経』一部にあらはして

定散諸機をすすめけり

諸善万行ことごとく

至心発願せるゆゑに

往生浄土の方便の

善とならぬはなかりけり

(浄土和讃)

「往生浄土の方便の 善とならぬはなかりけり」と親鸞聖人は仰っているのではないかと仰うことですが、この御和讃は浄土和讃の中で大経和讃と呼ばれるもので、十九願の心を明らかにされたものです。

十九願往生は諸行往生ですので、ここでいう往生浄土とは**方便化土の往生**のことになります。

つまり、獲信の因縁としての善を勧められたという意味では有りません。

親鸞聖人は御自身で、このご和讃に註釈を加えられています。

「十九(じゅうく)の願のころ、諸行往生なり」(頭註、註釈版聖典 P568)

このように前後を読むことによって、親鸞会で聞かされてきたことが、違っていたと分かる場合がびっくりするぐらい多いのです。

みなさんも、是非読んでみてください。

善を奨励するのは、仏教に限らず当然のことです。

ですが、修善と阿弥陀仏の救いとは関係がないのです。

浄土真宗とは、そもそもそういう教えなのですから。

私が30年近くにわたって、どうも判らないと思っていたことの解答は出たのです。

矛盾に思えるとか、そこに深い何かがあるのではなく、教えが浄土真宗の教えとは違っていたのです。

批判サイト

外側から見ると親鸞会の内部にいたときには分からなかったことが良く分かります。ネット上では様々な教義批判のサイトやブログが出来ています。

公然と自分の実名や連絡先も明らかにして、親鸞会発行の書籍の具体的ページを挙げて、ここはこのように間違っていると書いているブログもあるのです。

そしてその一部を印刷して、ある講師に見せたことがあります。

「これを見過ごせるのですか」と。

結局答えは有りませんでした。

上層部に「相手にするな」と言われたのでしょうか。

それらのブログに対して反論するわけでもなく、講師部員、特専部員に対しても見ることを禁止する。あのS号ビラの心意気はどこへ行ってしまったのでしょうか。

自らの教義的正当性を主張し対決したいのに、それが出来ないのです。

本尊の問題

退会時に返却しなければならない。

返却を拒否した人に対して、支部長始め会員数人で押しかけたという話も聞きます。

その様子がネット上で公開されています。

聖人直筆の六字名号本尊は、現在一体しか確認されていません。

西本願寺に所蔵されています。

その写真と照合した結果、親鸞会で下付されるものは、

「愚禿親鸞」の親鸞の部分を切り取って、

六字の横に貼りあわせて造られていた事が判明しています。

ご尊名を切り貼りするとは、あんまりじゃないでしょうか。

本願寺なぜ答えぬ

昭和58年に親鸞会と本願寺は宿善論争をしました。

このことについては、別の機会にします。

私はこの時の本願寺の対応が正しいとは思いませんが、一つ指摘しておきます。

本願寺の反論書B（＝派外からの異説について、紅樑英顕著）

は「なぜ答えぬ」には掲載されていません。（本書には反論書は全文掲載したと書かれてあります）

当時、この反論書Bは講師部にも伏せられていました。

今では、ネットで簡単に読むことができます。

この中で紅樑氏は的確に親鸞会の宿善論の問題点を指摘しています。

親鸞会発行書籍の剽窃問題

『会報』、『こんなことが知りたい』、『白道燃ゆ』、『光に向かって』という書籍が発行されています。私もお世話になった書籍です。これらの書籍を読んで、この先生は素晴らしい先生に違いないと思った人も多いはずですが。

ところが、その中のかかなりの部分が剽窃だったことが明らかになっています。しかも、読んで感動した内容にそれが多いいのです。

大沼法龍氏（真宗改革論者です。学識が深く名文家）や、伊藤康善氏（華光会の創始者）の著作からの丸写しが露見しています。

このことの問題点を以下に考えます。

人の文章を引用する場合は、誰のどの書物の何処の文章から引用したのか明確に示すのが、執筆者の姿勢である。

にもかかわらず、あたかも自分の創作のごとく書いている。多くを学び、多大な影響を受けたに違いない2人のことを何処にも触れていない。

上記のことが明らかになったにもかかわらず、説明や見解がない。

その後、会員の中で愛読者も多かった『会報』に関しては廃刊にしている。

最も深刻なこと。

大沼法龍氏や、伊藤康善氏のオリジナルの著作の方を読むと

「唯一の善知識」によってのみ明らかにされたはずの「親鸞会の教え」は、2人が教えていた事の合成教義であることが判るのです。

しかも、2人の真意ともずれているように感じます。

*剽窃・・・他人の作品・学説などを自分のものとして発表すること。

5. 退会、その後の現状について

もはや、親鸞会にいても正しい親鸞聖人の教えを聞けないと判断し、
昨年9月末日をもって退会しました。

(1.) 外部からの批判に対する対応

体験至上の者達

親鸞会を批判するものは体験談ばかりを言っていると印象付けしているようです。
誰のことを言っているのか、全く示されていません。
これが”親鸞学徒の本道”でしょうか。
各所にある親鸞会の批判の中心は教義に対する問題を指摘したものです。
”親鸞学徒の本道”と言いたいのなら、正面から答えるべきですね。

漫画

顕正新聞に「体験島」の漫画が連載されています。
親鸞会に対する批判をねじ曲げて載せています。
漫画の中で悪者という印象を植えつけ、会員の動揺を防ぐつもりようです。
恥ずかしい漫画です。悪意に満ちてますよね。

(2.) 議論

mixiで今年4月から7月にかけて、「三願転入の教えに」について議論がなされました。
「十方衆生は三願転入しなければ救われぬ」というこうへい氏（親鸞会講師部）と
意義をとらえる sutybi 氏、るうでる様氏、EMS氏、ぶりまま氏（妻です）その他の議論でした。
こうへい氏は途中から教学課に交代したようでした。
現在、こうへい氏が「必ず回答します」と言って返答がなく2か月間中断しています。
関心がある人は見てください。

(3.) 事業

同朋の里の一連の事業

（余計なお世話ですが、私も過去にこの募財に参加しました）
会員でも、必要性に疑問をもっている人が殆どでは無いでしょうか。
借金は返さなければならない。
建築物は維持費がかかるという当たり前のことを忘れてはいけません。

最近の募財は、会員が知らない間に全てが決まって発表される傾向が顕著なようです。
以前は大規模な募財の場合は合意形成の期間がありました。
今は、あれこれ考えず「深い御心」に従いなさいということのようです。
先生は全てを見通す神通力のようなものを持っていると、勘違いしてませんか。
この件では、昨年在籍中に支部長に警告しました。勿論聞く耳は有りませんでした。
親鸞会は加速度的に内向きな宗教団体になってきているという感じがします。

F館が5階建てという説明に関わらず、実は6階建てというのは有名な話です。
しかし何故、そのことを普通に公表しないのでしょうか。
そこに先生のお宅を設置するのなら、そのように説明すればいいのではないのでしょうか。

(4.) 本願寺

「念仏さえ称えていたら死んだら極楽、死んだら仏」と話をしていると聞いてきました。
これは誇張された悪宣伝だったようです。少なくとも後に紹介する書籍を見る限りは、
聖典の意味を読者に正確に伝えようとする意欲に溢れていると感じます。

6. 教義上の問題点

親鸞会で教えらるることの問題点は様々に指摘されていますが、いくつかあげておきます。どれも浄土真宗の教えの根幹に関わるものです。

(割愛)

7. まとめ

親鸞会の教え、あるいは運営に対して違和感や疑問がある人、生じている人はいつでも連絡を下さい。メール、電話、手紙、ブログのコメントどれでも結構です。

ここ2年程の間に、各地で「あの人が？」といわれる人が、親鸞会から去っています。支部が消滅したところもあるそうです。そのことの意味を考えてください。

とにかく高森先生について行く、という人もあるでしょう。それは一人一人が決めることです。

ですが、「浄土真宗親鸞会」、「親鸞学徒の本道に行く」というからには、あくまで親鸞聖人の教えを信奉する集まりでなければなりません。

いずれにしても、果たして、親鸞会では親鸞聖人の教えを正しく教えているのか、そのことを自分で確認することは無駄では無いはずですが。

幸いにも、親鸞聖人は多くの著作を残されています。お聖教を読んでみましょう。その為の道標になる本も出版されています。

真実信心がなければお聖教の正しい意味は判らないというのは、それこそ「体験至上主義」だと思います。(歎異抄は要注意ですが)

8. お勧め

(割愛)